

資源研究部の研究概要

1 資源評価調査

本県沿岸を含む東シナ海の対馬暖流系のアジ、サバ類、イワシ類、マダイ、ヒラメ等の水産資源を各県水産試験場等と共同で調査し、資源管理のための評価を行っています。

- 資源評価対象魚種の精密測定調査
- ガザミ、タチウオ、ヒラメ等漁獲状況調査
- 沖合海洋観測調査、卵稚仔調査



魚市場での調査

2 沿岸資源動向調査

本県沿岸において、マダイ、ヒラメ、カタクチイワシ等の有用魚種の卵及び仔稚魚の出現動向を把握するため、海洋調査を実施しています。

- 有明海、八代海、天草西海での定点調査
- 漁業者等への調査結果の提供



卵稚仔調査

3 内水面モニタリング調査

内水面における重要魚種の資源動向を把握するため、仔アユの流下及び稚アユの遡上状況のほか、ウナギの漁獲状況を調査しています。

- 球磨川における流下仔アユ及び遡上稚アユ調査
- 球磨川河口以北の八代海におけるウナギ漁獲状況調査



流下仔アユ調査

4 水産研究イノベーション加速化事業（タチウオ等生態解明研究）

八代海及び東シナ海で水揚げされたタチウオ及びカタクチイワシの耳石に含まれる微量元素分析により、八代海内外間の移動生態を解明し、本魚種の資源管理手法開発に繋がります。

- 八代海等のタチウオ及びカタクチイワシの耳石微量元素の分析



八代海産のタチウオ



タチウオの耳石



八代海産のシラス



シラスの耳石

5 有明海・八代海再生事業（ガザミ等の種苗放流技術の開発）

有明海特産魚介類であるガザミ等の放流効果を高めるため、種苗放流技術等の開発に取り組んでいます。

○ガザミ

- 放流場所及び放流サイズ別の放流効果について、漁獲物中の親ガニ由来 DNA 保持個体の検索により把握
- 黒デコ（孵化直前の黒色化した卵を抱く雌ガザミ）の再放流による資源添加効果について、上記同様に黒デコ由来 DNA 保持個体の検索により把握
- 標本船調査による推定漁獲量の把握

○クルマエビ

- 小型種苗（体長 14mm）の放流効果について、漁獲物中の親エビ由来 DNA 保持個体の検索により把握
- 囲い網による初期減耗軽減効果の把握

6 資源管理・漁業収入安定対策の推進

種苗放流と資源管理型漁業を組み合わせた資源造成型栽培漁業や資源管理・漁業収入安定対策を推進するため、県資源管理方針及び魚種別資源管理協定の策定、見直しを行うための基礎データを収集しています。

- 漁業実績報告や聞き取り調査によるカタクチイワシ（シラス）の漁獲実態の把握
- 調査結果に基づく資源管理手法の検討

7 スマート沿岸漁業推進事業

漁船漁業の ICT 化を行うことで、取得した海洋データ（水温・潮流等）から「いつ、どこで魚が獲れるのか」7日先までの漁場形成予測技術を大学や他県等と共同で開発し、出漁前に燃料費や漁獲量が見通せる計画的な漁業経営や、漁船漁業の担い手の確保と魅力ある就労環境・漁村地域の活性化を目指しています。

- 調査船及び漁業者参加型海洋観測
- スマート化漁業分析及び技術指導等